

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部附属病院

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S S	S	S S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		関連病院との緊密な連携により、阪大プログラムへの専門医登録者数を確保することを掲げ、平成29年度新規登録者49名(試行4領域: 外科、病理、眼科、小児科)から平成30年度新規登録者230名と大幅に増加させていることが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		新規試験や新規シーズを積極的に採用し、また、支援シーズ2件が薬事承認に至るといった特記すべき成果を出している。ネットワーク接続した病院数の増加、それによる10件の臨床研究、先進医療Bとして実施するがん遺伝子パネル検査数50例、「AI基盤拠点病院」の確立に向けた体制整備など多くの戦略性が高く意欲的な計画に取り組み、成果を出していることが高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		糖尿病センターを開設し、同センター内に戦略的に管理栄養士を配置することで、指導件数が飛躍的に増加したこと、国際共同臨床研究支援の支援件数の増加、脳死下・心停止下臓器移植の前年実績を上回る実施件数、国内2例目となる成人発症患者への脳死小腸移植実施により日本の移植医療に大きく貢献していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		文書作成や法的手続きのアドバイス等それぞれのプロジェクトに応じた支援を行い、支援件数は学内6件、学外8件と平成29年度より3件の増となっていることが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		複数の病棟をグループ化して入退院の情報を共有することで、効率的な病床運用を可能とし、新規入院患者数を800人増加(1月時点)させたことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

<p>【評価コメント(評定に至った理由)】</p> <p>常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、かつ大学実績に最も寄与していることが高く評価できる。</p> <p>常勤教員基礎データ入力率について、実績は低下しているものの、未更新者に直接確認し入力依頼をするなど実績向上のための取組が認められる。</p>
